

コボル短信(2)*

西村 恕彦**

いよいよ、ジャーナル (the COBOL Journal of Development) が発表された。これは、COBOL, Edition 1965 に続く正式文書であって、従来と同じように、アメリカ政府印刷局から有料で入手できると思われる。これまでのコボルの正式文書の発行間隔の実情に合わせて、ジャーナルもまた、1年以上、3年以下の間隔で発行されると称している。

技術的な内容を1965年版と比較すると、SIZE 句、CLASS 句、SEQUENCED 句など、冗長な表現が削除されたことが大きな違いであろう。管理工学研究所編：コボル1965年版の本文および訳者あとがきは、実質的にはこのジャーナルの内容を全部含んでいるはずである。

ジャーナルの巻頭には、開発の協力者として、ISO, ECMA, USASI と並んで、日本のコボル標準委員会が名前をあげられている。しかしこの委員会というのは要するに、学会のコボル研究会およびソフトウェア研究会の続けてきたコボルのあいまいさ、問題点、注意事項などに関する研究調査活動と、そこで蓄積された知識にもとづいた提案活動の実績が認められた

ものであって、そういう名称の委員会が実体として存在して、公合を開いているわけではない。そこで、アメリカに向けての提案活動も、そろそろ種が尽きかかっている。

〔宿題〕

SIZE (大きさ) 句は削除されて、なくなったわけだが、それではこの句で使われていた以下の予約語のうち、どれだけが現在もお予約語であるか。そしてその語はどの句や命令で使われているか、全部をあげよ。

SIZE, CHARACTERS, DIGITS, DEPENDING

同じく削除された CLASS (クラス) 句で使われていた以下の語についてはどうか。

CLASS, ALPHABETIC, NUMERIC, AN,
ALPHANUMERIC

(昭和43年9月27日受付)

* COBOL News and Olds (2), by Hirohiko Nisimura (ETL)

** 通商産業省